

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291300063		
法人名	有限会社 ライフスタイル東光		
事業所名	グループホーム 亀嵩蛍灯		
所在地	鳥根県仁多郡奥出雲町亀嵩443		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=3291300063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和7年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【利用者にとって】
・事業所の暖かい雰囲気作り
・家庭的な暮らし方の提案
【職員にとって】
・無理のない働き方の提案(体調や持病に合わせて調整)
・職員が無理をしても利用者に良い生活を送って頂こうと思わず、両者心地よく過ごせるような仕事の配分を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた木のぬくもりが感じられる古民家風で平屋建て2ユニットのホームです。すぐそばの温泉の湯を使用されており、テラスでの足湯、入浴時にも温泉に入れる楽しさを提供されています。
一人ひとりの生活ペースや今まで暮らしてこられた生活背景を尊重し、役割を持って暮らして頂けるよう食事の準備や片付け、掃除、洗濯、園芸、畑作業など職員と一緒にやっておられます。
食事を楽しめるよう毎食手作りの食事が提供され、野菜を作られたり、漬け物をつけられたり、おやつ作りもみなさんで行われています。誕生日には希望のメニューを伺い、季節ごとの行事メニューも提供されています。
利用者がゆったりと自分らしく生活して頂ける支援になるよう職員は努め、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮された職場環境になるよう目指しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、理念達成の為情報を共有し取り組んでいる。また月/1回のミーティングの際に理念について話し合いをしている。	事業所理念の達成のために情報共有が行われており、毎月の全体ミーティングの際には理念について話し合い、振り返りの時間を持たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の個人商店と定期的に外販事業を通じて交流させて頂いている。	利用者の方に買物をして頂く機会を提供する為、地域の個人商店による移動販売を利用していただけます。コロナ5類移行に伴い、地域との関わりも徐々に再開され、今年は地域のとんどさんの準備に参加されました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は事業所の力を活かした地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年6月の運営推進会議より従来通り2カ月に1回のペースにて開催している。	コロナ禍の中では書面開催でしたが、令和5年6月の運営推進会議より2ヶ月に1回のペースで対面で開催されています。ホームの運営状況、活動の報告が行われ、参加メンバーの方よりのご意見を頂き、サービス向上につなげておられます。	運営推進会議の際に、昼食試食会や避難訓練の様子を見て頂く等、利用者の日々の様子を見て頂きアドバイスを頂く機会を持たれてmお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	雲南広域連合介護保険課の担当者様と相談し、入居や指定の事について協力して頂いている。	運営推進会議に雲南広域連合、奥出雲町地域包括支援センター職員に参加頂き情報提供頂いております。雲南広域連合介護保険課の担当者とは主に電話で質問されたり、相談し、入居や指定の事について協力してもらわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置しており、チェックリストを作成し職員が自ら「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をしない様、毎日チェックできるようにしている。	身体拘束防止委員会を設置され、定期的開催されています。チェックリストを作成し職員が自ら「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をしない様、毎日チェックできるようにしております。スピーチロックを中心に言葉掛けについて検討しております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を防ぐために声掛けから注意を払っている。同意を得る様、声掛けをしてから介助する様に指導している。定期的に虐待防止の研修も行っている。	虐待防止の指針の策定が行なわれ、委員会も定期的に開催されています。高齢者虐待を防ぐために声掛けから注意が行なわれています。利用者からの同意を得られるよう声掛けをしてから介助する様に指導されています。定期的に虐待防止の研修も行われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず説明を行い、同意を得ている。また分からない点が無かったか質問をするようにしている。また契約後においても不明点があればアフターフォローを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂戴すれば月/1回開催のミーティングにおいてフィードバックし改善に向けて行動できるようにしている。	利用者からは日々の会話の中から意見や要望を伺われています。家族からは面会時やケアプラン変更時に意見や要望を伺われており、県外の家族には電話で確認されています。毎月のお便りは担当からコメントを入れ、利用者の様子が分かるよう送られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回のミーティングを実施し、職員の意見、提案を聞けるような場を作っている。	毎月全体ミーティングを実施し、職員の意見、提案を聞けるような場を作っておられます。管理者は本社の管理者会議に参加され職員からの提案を伝えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職によって給与が上がる制度を作り、役職の選出基準を設けている。	適宜個人面談を行ない、職員一人ひとりの目標設定が行われ、研修希望も聞かれています。会社の基準をクリアされていれば、(資格取得も含め)、キャリアアップができる仕組みがあります。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、現状できる限りの社外研修幹旋を行っている。	全職員に向けた社内の必須研修も行われています。オンデマンドも利用し研修が行われています。できる限りの社外研修の幹旋を行ない、ケアマネや介護福祉士の研修参加も勧められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人における他事業所と意見交換できるシステムを構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント後も担当職員が情報収集やモニタリングが出来る様、システム作りをしている段階であり、まだ完全に担当者主体では行えていない。各ユニットリーダーが先導しながら本人様には思いを傾聴しケアに活かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係作りの為、ケアプランどう維持に心配事が無いか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居介護 サービスのため、他の介護保険は使用できないが、介護保険外のサービスが活用できないか家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り家と同じように家事など本人が出来る事はなるべくして頂くように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故報告や問題提起など逐一連絡し、家族と共にお客様の生活を考える姿勢でいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を不定期で行っている。可能な限り利用者様が望まれる場所に出掛けれるよう努力している。なお冬季においては雪深い地域であるため外出が困難である。	外出支援を不定期で行ってられます。可能な限り利用者様が望まれる場所に出掛けれるよう努力されています。なお、冬季においては雪深い地域であるため安全面を考慮すると外出が困難です。	馴染みの場所や人に会われた際には昔話から回想法につなげて行かれる事も良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく孤立する事の無いよう席の配置を決め、利用者同士の関係を作り事が難しい方に関しては、スタッフが会話をする等、工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から問い合わせがあった場合は相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、意思決定している。また生活歴を調べ現在の生活に活かしたり、継続することができないか検討している。	日常的に利用者に対して話し掛け、本人の意向に沿えるよう努力されています。本人の意思を尊重し、意思決定をされています。また、生活歴を調べ現在の生活に活かしたり、継続することができないか検討されています。	利用者の思いや意向から生きがいや長生きする為の目標につなげられるようにしていけると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、サービスに繋がられる様配慮している。食堂経営をしていた方に食事作りをして頂きながら馴染みのある生活が出来るような提案をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状、出来ていない。の把握に努めている。またご家族様から情報提供を随時頂き、ケアに反映できる様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の際に話し合った内容をケアプランに反映させている。しかし、担当者会議で挙がった内容全てをプランに反映させる事は出来ておらず、十分に現状に現状に則した内容とはなっていない。	部屋担当が素案を作り、計画作成担当を話し合い、原案を作成、その後他の職員、主治医の意見を入れ、家族の意向確認をされ、本案が作成されています。モニタリングは3ヶ月、評価・見直しは6ヶ月毎に行なわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に出来事を記入し情報共有を図っている。	記録は全て手書きで行なわれています。部屋担当が素案作りをされることで、記録の振り返りが行われており、プランの変更がある場合には計画作成担当が留意点について情報の共有を行ってられます。	生産性の向上への取り組みとして、ICTの推進、介護ロボットの導入等の検討を行い、職員の負担軽減に向け検討していける事も良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	細々とした問題を利用者の要望や状況から読み取り、家族様に連絡し共に解決に向けて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活用して地域と交流を図っているが十分ではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	千原医院と連絡を取り合い、適切な医療が提供できるよう支援している。また認知症の周辺症状が強く出られる方についてはきながら、適切な医療を受けられるよに支援して永生クリニックのフォローを受けている。	往診にも来られる協力医と連絡を取り合い適切な医療が提供できるよう支援されています。認知症の周辺症状が強く出られる方もおられ総合病院への受診支援が行われています。内科以外の受診支援も行われています。歯科は病院受診が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力体制が取れる様、情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は先方の相談員と情報共有を行っている。	入院の際には地域連携室のソーシャルワーカーと情報共有をされ、早期退院を目指し、退院カンファレンスも行われ退院後の生活の注意点も聞かれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向調査を行っている。現状終末期を迎えた方は、ご家族様と相談しながら医療機関、特養への移動を斡旋している。	契約時に終末期の意向調査が行われています。現状終末期を迎えた方は、医療行為が多くなれば、家族と相談しながら医療機関、特養への移動を斡旋されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が訓練を受けている訳ではないが、月に1回のミーティングの際に可能な限り研修を行い職員の知識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、心肺蘇生訓練を行っているが、地域との協力体制は十分ではない。避難訓練年/2回実施。地域との合同練習などは現在出来ていない。	事業継続計画(BCP)の策定もされており、机上訓練が行われています。平屋で新しい建物なので地震の際も対応ができます。火災訓練、心肺蘇生訓練が行われています。法定で定められた年2回の避難訓練は実施されています。	運営推進会議に自治会長が来られているので、避難訓練の様子を見て頂き、地域との協力体制について検討されることに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	比較的丁寧な声掛けや対応ができています。	排泄、入浴についてはマニュアルに沿って、プライバシーを損ねないよう対応されています。記録は利用者がおられない状況で書かれています。声掛けについても事業全体で気を付けるように心掛けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいか確認を取って、ケアに反映させられるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて日々生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく以前から着ておられた服を持って来て頂ける様、家族に声掛けし支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、実施出来ている。利用者と一緒に食事作り、準備、片付けを行っている。	3食全て手作りで提供されており、畑もあり、収穫された野菜を献立に取り入れられています。調理する音や匂いが感じられ家庭的な雰囲気環境です。手作りおやつ、誕生日には希望メニューの提供もあり、男性の利用者もお手伝いを頂いております。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し確保が出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている、しかし本人の希望や拒否が強い方に関しては意思を尊重し、毎回行っていない。	毎食後行われており、必要に応じて仕上げ磨きも行われています。本人の希望や拒否が強い方も寝る前には残渣物等を確認のために口腔状態の確認をされています。義歯は寝る前に洗浄液に入れ、各自部屋で保管されています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせて排泄の環境を整えており、場合によっては見守り、介助を行っている。	パターン表で排泄リズムを把握され、個々に応じた声掛け、誘導、介助が行われています。2人介助の方もおられますが、できるだけ最期までトイレで排泄ができるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に対する取り組みは十分に行えていないが、便秘時は長引かない様、主治医に定期薬の検討や下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴時間を定めているが、可能な限り本人の意志を尊重し、入りたい時間に入浴頂いている。	特浴もあり、状態に応じた対応が行われています。週2回を目安に入浴されています。可能な限り本人の意思を尊重し、入りたい時間に入浴されており、あまり拒否をされる方はありません。お湯は温泉になっており、みなさん入浴を楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に本人様にお任せしているが、昼夜一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ逆転傾向の方は日中なるべく活動的に生活して、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	三成薬局と連携し、居宅療養管理指導を受けており薬剤師から説明を受けている。また処方内容の変更時は状況変化に注意して見守りを行っている。	薬局と連携され、居宅療養管理指導を受け薬剤師から説明を受けておられます。薬は薬局から配達され、仕分けは准看護師もしくは管理者が行われています。服薬時はダブルチェックが行われています。処方内容が変更になった場合には状況変化に注意され、何かあれば医師に連絡されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての利用者には行えていないが生活歴を掘り下げた支援を行い、楽しい毎日を過ごして頂ける様、配慮をしている。 例)掃除、縫物、手芸、園芸、塗り絵、点つなぎ等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて出かけられる様、配慮しているが冬季などは雪があるため外出が出来ていない。	家族と一緒に食事に行かれたり、自宅へ帰られる方もあります。春になったら、近くに桜も咲き、ペランダにある足湯も利用されます。(温泉のお湯が使われています)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は事務所の金庫でお預かりしている。毎週火曜日近所の加藤商店が訪問販売に来られ、その際に買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については行っているが手紙については現状、対象の方がおられない。年賀状を自身の手で家族に書いてもらうという取り組みを行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既設によって時期の行事飾りや植物、花を飾るようにしている。	玄関には季節に応じた物が飾られています。(今の時期は雛人形)みなさん各々が落ち着ける場所を見つけて過ごされています。日当たりも良く、温度・湿度・換気にも気を付けておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく楽しく過ごして頂ける様、ソファや椅子を配置して思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に使い馴染みのある家具や食器を持って来て頂ける様、配慮している。	食器も含め、家で使い慣れた物を持って来て頂き本人が居心地良く過ごせるようにされています。本人の動きやすいベッドの配置を変えたり、エアコンの風向きにも配慮され自宅での環境に近づけるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なんでも介助や手を出しすぎない様、配慮している。		